【実践事例（１）】

（宮城県蔵王高等学校）

地域の災害特性を自治体防災担当部局とハザードマップで確認

学校の状況

〇蔵王山から約19kmに位置し，蔵王山から流れる松川沿いに学校がある。

〇学校は蔵王山噴火による町の要配慮者利用施設には指定されておらず，町の指定緊急避難場所や指定避難所にも指定されていない。

〇蔵王山の噴火による被害は，学校やその周辺にどのような被害が想定されているのか，また，被害の状況によっては学校外への避難が必要かを検討している。

取組方法

1 自治体防災担当部局と防災主任及び管理職とで確認の場を設定した。

2 蔵王山の噴火により，どのような被害が想定されているかを，自治体のハザードマップの見方を説明され，確認した。

3 学校に隣接する川で3～5m，学校には0～0.5mの融雪型火山泥流が，1時間から1時間半の間に到達することを確認した。

4 融雪型火山泥流が発生した際には，学校に隣接する川に掛かる橋も通行止めになり，危険なため，生徒を下校させず，校舎2階に避難することを確認した。

【蔵王町防災ガイドより】